

日本株投資戦略1月号

-2021年のリベンジなるか。
日本株の見直しに期待-

令和3年12月29日

アイザワ証券 市場情報部

2021年12月29日発行／審査番号：211229-B1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa

- ・ 1月の主なイベント
- ・ 2021年の株式市場
- ・ 2021年の主要指数の騰落率
- ・ 日経平均のバリュエーションと日銀買い
- ・ 日経平均予想PERとドル円相場
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - ・ 日本電産
 - ・ ソニーグループ
 - ・ 日立製作所
 - ・ ルネサスエレクトロニクス
 - ・ SUMCO
 - ・ 芝浦メカトロニクス
 - ・ 三井住友フィナンシャルグループ
 - ・ SOMPOホールディングス
 - ・ 第一生命ホールディングス

1月の主なイベント

		日本	海外
4日	火	12月マネタリーベース、12月新車販売台数	11月米建設支出
5日	水		12月米ISM製造業景気指数、12月米ADP全米雇用リポート
6日	木		11月米貿易収支
7日	金		12月米ISM非製造業指数、11月米製造業受注、12月米雇用統計
10日	月	11月景気動向指数 11月経常収支 12月マネーストック、12月工作機械受注 12月企業物価指数	11月ユーロ圏失業率
11日	火		11月ユーロ圏鉱工業生産指数、12月米CPI 12月米財政収支 12月米小売売上高、12月米鉱工業生産指数
12日	水		
13日	木		
14日	金		
17日	月	11月機械受注	1月米ニューヨーク連銀景気指数 1月米NAHB住宅市場指数、11月ユーロ圏経常収支、12月米住宅着工件数 12月ユーロ圏消費者物価指数、1月米フィラデルフィア連銀景気指数 12月米中古住宅販売
18日	火	日銀「展望レポート」公表	
19日	水	12月貿易収支 12月CPI	
20日	木		
21日	金		
24日	月	11月景気動向指数	12月米シカゴ連銀活動指数
25日	火		11月米S&Pコアブティック・ケース・シーラー住宅価格指数
26日	水		12月米新築住宅販売、米FOMC 12月米個人消費支出・個人所得
27日	木		
28日	金		
31日	月	12月鉱工業生産指数、12月住宅着工統計	10-12月ユーロ圏GDP

出所: 12月21日現在、Quickよりアイザワ証券作成、予定は変更の可能性もあります

- ◆ 国内: 11日に11月景気動向指数、18日に日銀展望レポートを公表予定。
- ◆ 海外: 7日に米雇用統計、27日に米FOMCを予定。

2021年の上昇率 TOP30

日経平均

	銘柄名	上昇率
1	6335 東京機	317.7%
2	9101 郵船	265.0%
3	7816 スノーピーク	257.1%
4	9107 川崎船	234.5%
5	3465 ケイアイスター	221.8%
6	7187 ジェイリース	220.3%
7	4980 テクセリアルス	205.8%
8	6966 三井ハイテ	204.7%
9	6920 レーザーテック	198.2%
10	6236 NCHD	191.2%
11	6779 日電波	184.2%
12	3675 クロスマークG	183.2%
13	6532 ベイカレント	170.1%
14	6616 トレックスセミ	169.5%
15	4251 恵和	168.0%
16	9104 商船三井	167.6%
17	6564 ミダックHD	166.7%
18	5698 エンビプロH	164.9%
19	6191 エアトリ	162.9%
20	6083 ERI HD	157.7%
21	6962 大真空	151.2%
22	9110 ユナイテッド海	147.5%
23	6264 マルマエ	147.1%
24	1518 三井松島	144.3%
25	6787 メイコー	144.1%
26	6967 新電工	142.1%
27	5358 イソイト	141.1%
28	2395 新日科学	140.7%
29	7433 伯東	137.3%
30	9308 乾汽船	135.2%

新興市場

	銘柄名	上昇率
1	3936 グロバルウェ	591.5%
2	2158 FRONTEO	449.8%
3	2195 アミタHD	349.7%
4	7036 イーエムネットJ	319.8%
5	7078 INC	307.3%
6	7089 フォースタ	275.3%
7	7809 壽屋	257.3%
8	3083 シーズメン	246.7%
9	6554 エヌユーエス	212.2%
10	4582 シンパイ	208.3%
11	5820 ミツ星	206.0%
12	6193 ハーチャレクス	191.6%
13	6957 芝浦電子	191.1%
14	9941 太洋物	185.4%
15	4169 エネチェンジ	178.2%
16	7863 平賀	175.0%
17	6626 SEMITEC	167.4%
18	5381 Mipox	167.2%
19	7047 ポート	143.3%
20	2986 LAHD	142.2%
21	9272 プティックス	140.8%
22	6890 フェローテック	130.6%
23	6337 テセック	129.7%
24	7091 LPF	123.4%
25	6694 ズーム	120.9%
26	7094 NexTone	115.1%
27	4235 UFHD	113.0%
28	4591 リモミック	112.7%
29	7777 3Dマトリクス	109.6%
30	6658 シライ電子	109.1%

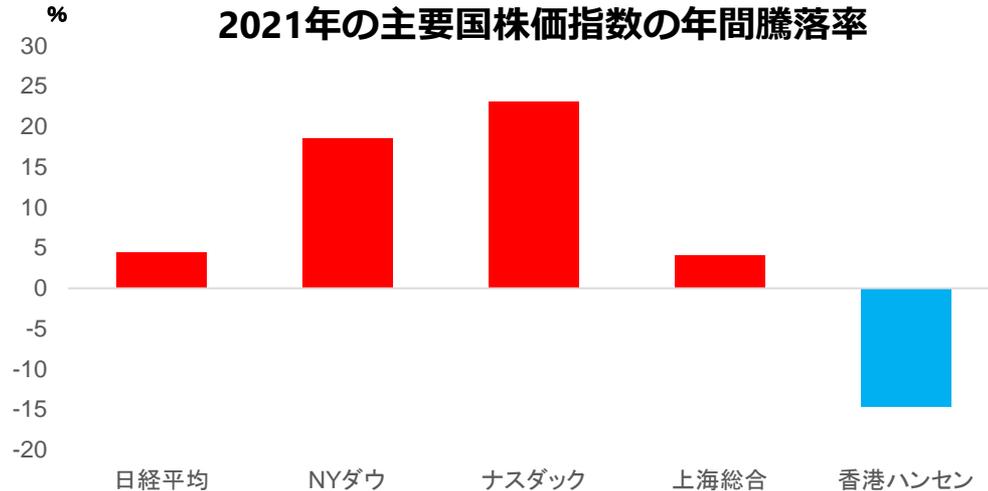
◆2021年の東京市場の年間騰落率（12月27日終値ベース）は、日経平均が+4.5%、TOPIXが+9.6%となり、両指数ともに上昇したが日経平均の上昇率がTOPIXを下回った。これは、日経平均への寄与度が高いファーストリテイリング、ソフトバンクグループの低調な株価パフォーマンスが要因だ。ファーストリテイリングとソフトバンクグループの2社は日経平均の12%程度を構成しているが、年間（12月27日終値ベース）でファーストリテイリングは▼28.2%、ソフトバンクグループは▼35.2%の下落となって日経平均の足枷となった。

◆新興市場の2021年の年間騰落率（12月27日終値ベース）は、JASDAQは+3.0%の上昇となったが、マザーズは▼17.6%の下落となり、新興銘柄には厳しい市場環境であったといえよう。

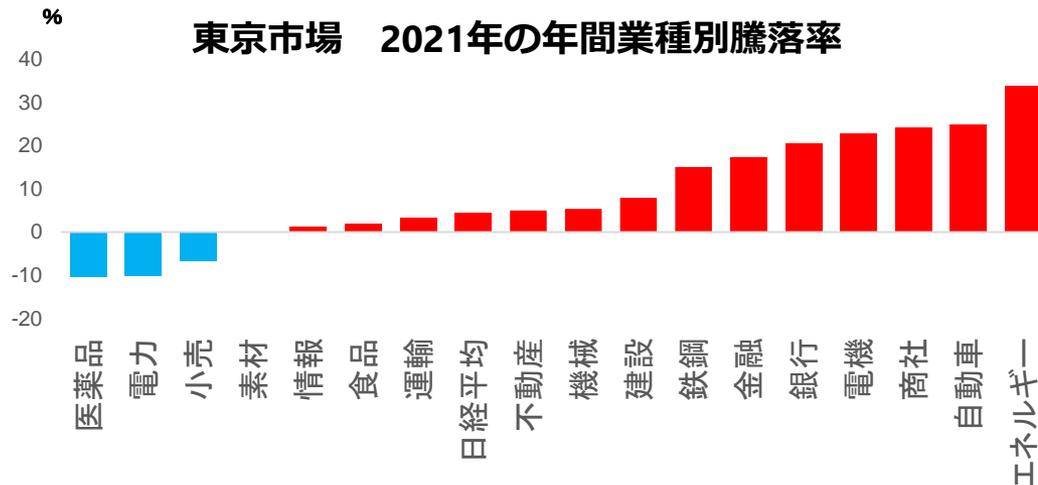
◆個別銘柄では日本郵船、川崎汽船、商船三井などの船株やレーザーテック、トレックスセミコンダクター、新光電工など半導体関連銘柄の上昇が目立った。

出所：Quick、アイザワ証券作成、2020年12月25日終値と2021年12月27日終値にて算出

主要指数の騰落率



出所: Quick、アイザワ証券作成、2021年12月27日(香港ハンセンは12月24日)終値にて算出



出所: Quick、アイザワ証券作成、2021年12月27日終値にて算出

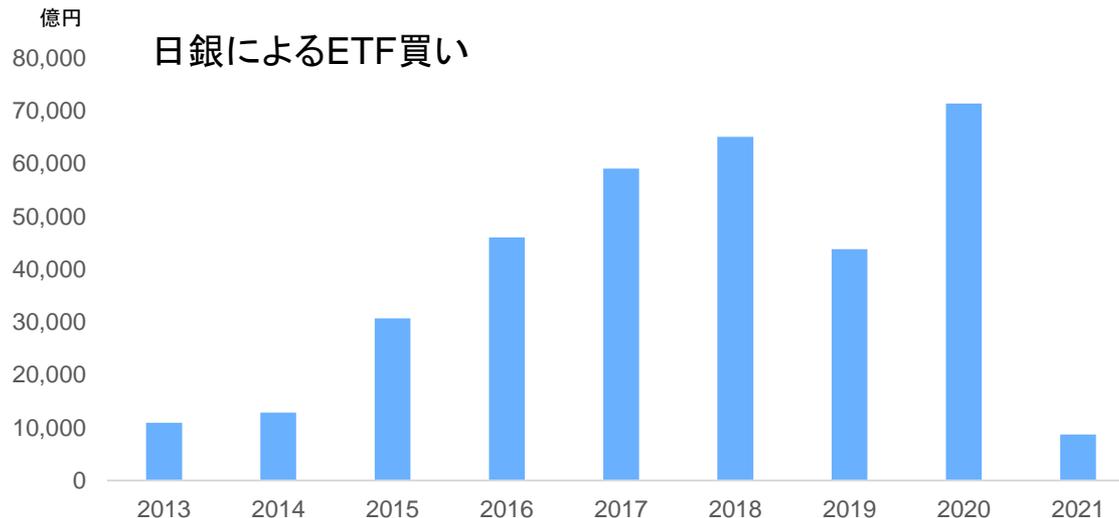
- ◆ 米国市場が好調: 2021年の年間騰落率では、ダウ、ナスダックなど米国市場の上昇が目立った。一方で、日本や中国市場はやや精彩に欠けた。日経平均のパフォーマンスは主要構成銘柄であるファーストリテイリングやソフトバンクグループの株価が下落したことや日銀買いが低調で投資家マインドを冷やすなど、需給関係が悪かったことが要因といえよう。政治リスクや不動産リスクが高まった中国は軟調なパフォーマンスであった。

- ◆ 13業種が上昇: 2021年は17業種のうち13業種が上昇した。原油など資源価格の上昇を背景にエネルギーが上昇率のトップ。円安ドル高を追い風に自動車が増加した。医薬品、電力、小売など内需関連が下落した。

日経平均のバリュエーションと日銀買い



出所: Quick、アイザワ証券作成、2019年1月～2021年12月27日



出所: Quick、アイザワ証券作成、2021年は12月20日まで累計

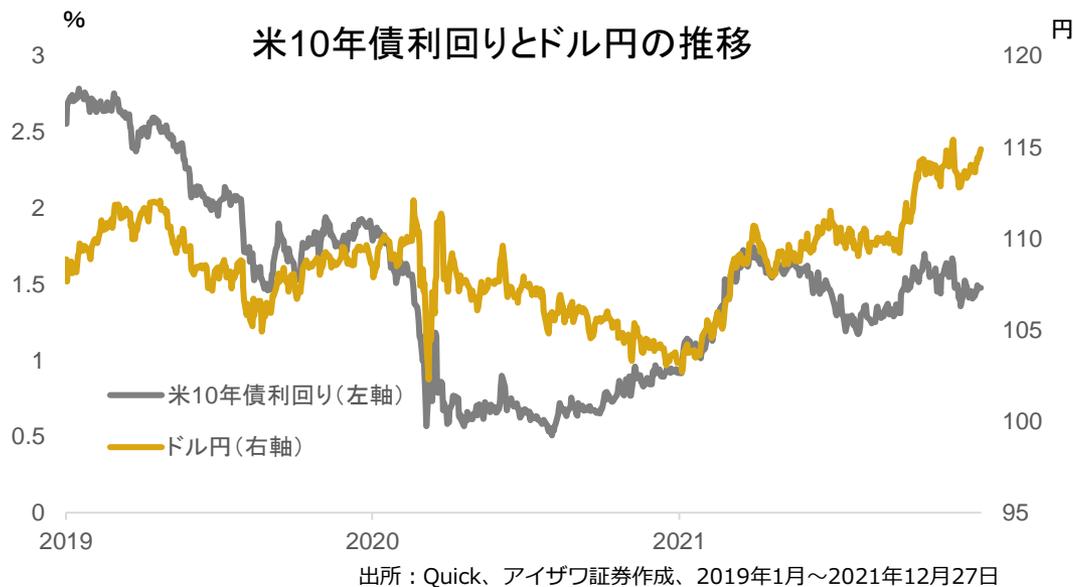
◆ バリュエーションは低位が続く：2021.3期上期の上場企業の純利益は上期としては過去最高を記録するなど好調であった。一方で、好業績にもかかわらず株価はぱっとしなかったことから、株価バリュエーション (予想PER)は切り下がってきているのが足元の日経平均のバリュエーションである。

◆ 大きく落ち込んだ日銀買い：2021年の相場の大きな変化は落ち込んだ日銀のETF買いである。2015年ごろから年間に3兆円を超える規模にまで拡大した日銀のETF買いは2020年には7兆円を超える規模にまで拡大した。このことが「相場が下がったら日銀買いに期待」となって投資家の投資マインドを好転させていた。しかしながら、2021年は一転して日銀買いはなりを潜めた。このことが日本株の需給悪化につながったが、裏を返せば「日本株は放置されて過熱感に乏しい」といえよう。

日経平均のPER推移とドル円相場



- ◆ ほぼ200日移動平均線上で推移：
2021年の日経平均は中頃までは200日移動平均線を上回って推移していたが、中頃に200日移動平均線をタッチしてからは200日移動平均線を挟んだ展開となっている。2021年の日経平均の特徴は2万7000円～3万円のレンジ相場であった訳だが、足元の日経平均には予想PER13倍台と割高感は感じられないなか、来期の業績見通しにて増益期待が高まるようならば見直し買いとなることが予想される。



- ◆ ドル円は円安トレンドが継続か：
2021年のドル円相場は一時、およそ4年10カ月ぶりの円安となる1ドル115円半ばをつけた。その後、コロナの変異種であるオミクロン株の拡大懸念が広まったことにより、米長期債利回りが低下したことから、ドル円は113円台前半の円高となったが、再度115円を目指す展開となっている。2022年は115円を上回る円安が見込まれる。

2021年は好決算ながらバリュエーションには反映されずレンジ相場が続いた

✓ 2021年は好調な企業決算の期待を裏切るように日本株相場は盛り上がり欠けた。全般的に、好業績であったことからバリュエーションに見直しが入ることが期待され、日経平均も一時は上値が3万円を超える局面はあったものの、3万円を超えると天井感が台頭して売りに押され、3万円を大きく突き抜けて上値を形成するパワーはなかった。もっとも下値となった2万7000円台ではすかさず押し目買いが入り、相場が大きく崩れることもなかった。レンジ相場が続くことになったが、これはひとえにグローバル投資家から日本株は需給の関係から上値は重い、相対的に割安感があるとみられていることの裏返しであろう。

低調であった日銀買い

✓ 上値が重かった背景には低調であった日銀のETF買いがある。2021年の日銀のETF買いは2020年の1/9の水準にまで落ち込んだことから、投資家は積極的に日本株の上値を追う気にはならず、日本株離れを招いたといえる。GPIFの日本枠に大きな買い余裕がなく、新たに設定された国内の投資信託も米国株を対象にしたものが多かったことから、新たな買い手の不在が低調な日本株相場を招いたといえる。

放置されているのでチャンスが高まる

✓ 日本株を取り巻く環境としては、企業業績が好調な中、需給が悪く株価に過熱感がなく放置されているようならば仕込みどころのチャンスであるといえる。来期の企業業績については半導体不足から落ち込んだ自動車の生産回復と円安ドル高から、増益シナリオが描けるといえ、日経平均の上値レンジは3万円から10%程度切りあがった3万3000円を想定している。注目銘柄は、2021年と同じく、デジタル、半導体関連銘柄である。2021年は日経平均がほぼ横ばいで推移するなか、東京エレクトロン、レーザーテックなどの半導体関連銘柄は上場来高値を更新するなど好調に推移しており、これら銘柄は日経平均と別物と考えた方が良さそう。

今月の注目銘柄

- ・ 日本電産
- ・ ソニーグループ
- ・ 日立製作所
- ・ ルネサスエレクトロニクス
- ・ SUMCO
- ・ 芝浦メカトロニクス
- ・ 三井住友フィナンシャルグループ
- ・ SOMPOホールディングス
- ・ 第一生命ホールディングス

株価:(2021/12/27)	13,485円
52週高値:(2021/02/16)	15,175円
52週安値:(2021/10/05)	11,170円
予想PER	53.2倍
PBR	6.85倍
予想配当利回り	0.44%
時価総額	80,408億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ブラシレスDCモータで世界シェアNo.1。得意とするモーター技術を生かし、大きな電動化の波が訪れているEV（電気自動車）、電動バイクで事業の拡大を図る。
- 21年12月末に同社の電動バイク駆動用インホイールモータが中国最大手の電動2輪車メーカーに初採用されたことがプレスリリースされた。中国においても高い価格競争力が伺える。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	15,348	4.0%	1,085	▼16.0%	1,051	▼19.0%	584	▼46.8%	99.3	57.5
2021/03 実績	16,180	5.4%	1,600	47.4%	1,529	45.5%	1,219	108.7%	208.2	60.0
2022/03 予	18,000	11.2%	1,900	18.8%	1,850	21.0%	1,480	21.4%	252.6	60.0

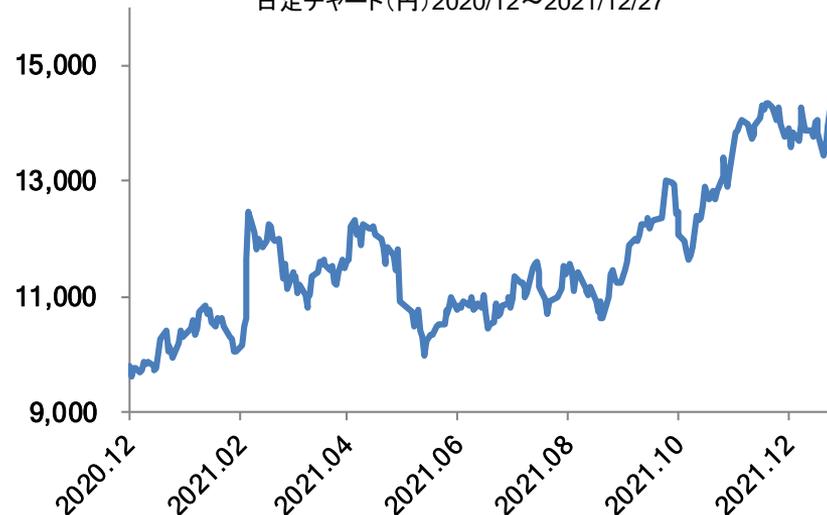
国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり、2020年4月1日付けで1株を2株に株式分割を実施、遡及修正済

アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	14,365円
52週高値:(2021/12/27)	14,430円
52週安値:(2021/01/28)	9,915円
予想PER	24.3倍
PBR	2.51倍
予想配当利回り	—%
時価総額	181,154億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/12~2021/12/27



- グループ傘下の配給会社によると、スパイダーマンの最新作が公開後わずか12日で世界興行収入が10億ドルを超えるなど大ヒットしている。
- 2022年はVR（バーチャルリアリティ）、AR（拡張現実）のビジネスが拡大すると言われている。同社が保有する世界有数のハードとソフトにとって、VR、AR社会は追い風となることが期待できる（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	82,598	▼4.7%	8,454	▼5.5%	7,994	▼21.0%	5,821	▼36.5%	471.6	45.0
2021/03 実績	89,993	9.0%	9,718	15.0%	11,923	49.1%	11,717	101.3%	952.2	55.0
2022/03 予	99,000	10.0%	10,400	8.9%	9,900	▼0.8%	7,300	▼29.1%	—	—

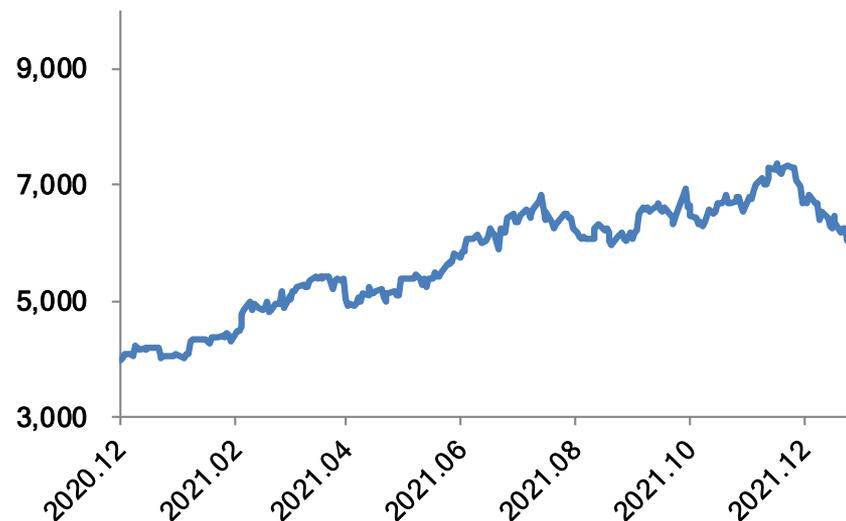
国際会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり)

アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	6,104円
52週高値:(2021/11/24)	7,460円
52週安値:(2021/01/04)	3,966円
予想PER	10.7倍
PBR	1.54倍
予想配当利回り	1.88%
時価総額	59,101億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/12~2021/12/27



- 12月22日に自動車部品を扱う日立アステモにてブレーキ、サスペンションなどで不適切検査があった公表、株価は下落した。残念な発表だが、中長期の成長ポテンシャルへの影響は軽微とみている。
- リアルとバーチャルを結ぶDX（デジタルトランスフォーメーション）に注力。米グローバルロジックの買収によりグローバルでDXを推進するプラットフォームを得た。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		調整後営業利益		継続事業税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	87,673	▼7.5%	6,619	▼12.3%	1,803	▼65.1%	876	▼60.6%	90.7	95.0
2021/03 実績	87,291	▼0.4%	4,951	▼25.2%	8,444	368.4%	5,016	472.6%	519.2	105.0
2022/03 予	97,000	11.1%	7,400	49.4%	8,000	▼5.3%	5,500	9.6%	569.1	—

国際基準(単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり)

アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	1,410円
52週高値:(2021/11/19)	1,577円
52週安値:(2021/01/04)	1,042円
予想PER	—倍
PBR	2.62倍
予想配当利回り	—%
時価総額	27,387億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- 同社はNON-GAAPベース（一過性の利益や損失を除いた実力ベースの収益、ダイアログを除く）で営業利益を公表しているが、第3四半期累計（21年1-9月の9ヵ月）のNON-GAAPベースでの営業利益は前年同期比+93.4%の1942億円と好調。
- 今年10月にイスラエルで事業を展開するCeleno社の買収を発表。クロージングは今年12月末までに終わる計画である。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	7,182	▼5.1%	62	—%	▼3	—%	▼63	—%	—	0.0
2020/12 実績	7,156	▼0.4%	651	—%	652	—%	456	—%	26.5	0.0
2021/12 予	9,779	36.7%	—	—%	—	—%	—	—%	—	—

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり、2021.12期は未予想) アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	2,361円
52週高値:(2021/04/30)	2,954円
52週安値:(2021/10/05)	2,031円
予想PER	23.0倍
PBR	2.44倍
予想配当利回り	1.52%
時価総額	8,267億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



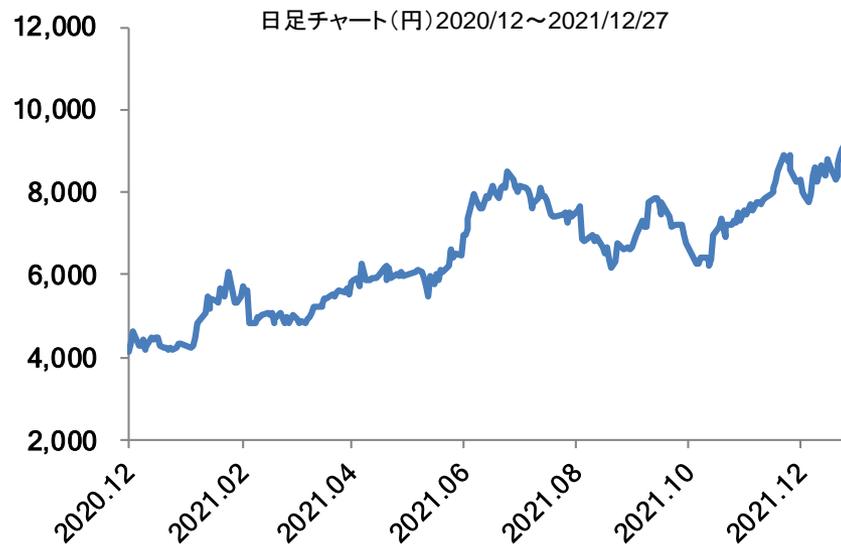
- 半導体向けウェーハ大手の一角。2022年、2023年とウェーハ不足が顕在化するとみられ、最先端のロジック半導体を中心に生産能力増強に向けた設備投資を積極化している。
- SUMCOでは300ミリ半導体用最先端シリコンウェーハの増産投資を発表。来年初頭から建設投資を開始して2023年後半から段階的に生産を開始する。今回の投資では顧客とウェーハ価格の値上げ、長期契約が結ばれ、来期以降の業績改善が期待される。(横山 泰史)

業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	2,994 ▼7.9%	506 ▼40.5%	483 ▼41.8%	331 ▼43.5%	112.9	35.0
2020/12 実績	2,913 ▼2.7%	378 ▼25.2%	356 ▼26.2%	255 ▼23.0%	87.4	27.0
2021/12 予	3,329 14.3%	505 33.3%	476 33.5%	359 40.8%	118.6	36.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	9,310円
52週高値:(2021/12/27)	9,380円
52週安値:(2021/01/04)	4,175円
予想PER	16.4倍
PBR	1.84倍
予想配当利回り	2.14%
時価総額	483億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ FPD(フラットパネルディスプレイ) 製造装置、半導体製造装置などの製造装置の開発製造を行っている。半導体製造装置は前工程における半導体ウェーハの製造工程にて使用される洗浄装置やエッチング装置などを扱っている。
- ◆ 半導体製造装置では暫くの間、ウェーハ製造メーカーによる大型投資が低迷していたが、ウェーハ大手のSUMCOが新工場の建設計画を発表。(横山 泰史)

業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	471 ▼11.2%	31 ▼21.9%	27 ▼26.8%	19 ▼21.6%	440.7	110.0
2021/03 実績	447 ▼5.0%	29 ▼5.3%	28 1.8%	19 1.3%	446.1	110.0
2022/03 予	480 7.2%	42 43.7%	40 43.6%	25 26.9%	566.0	200.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	3,925円
52週高値:(2021/03/19)	4,354円
52週安値:(2021/01/04)	3,134円
予想PER	8.0倍
PBR	0.43倍
予想配当利回り	5.35%
時価総額	53,943億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券、カード・ローンなどに展開。地域銀行、証券、リースなど事業再編、コスト削減・効率化を推進。
- ◆ 2021年4-9月期（2Q）累計実績は 増益、前年好調だった市場部門を除く全部門で堅調、与信費用減少と株式損益好転も寄与。通期会社純利益予想は増額修正、進捗率は68%。業績上振れを受けて、増配と自己株取得を発表。（水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	45,918	▼4.4%	9,320	▼17.9%	7,038	▼3.1%	511.8	190.0
2021/03 実績	39,023	▼15.0%	7,110	▼23.7%	5,128	▼27.1%	374.2	190.0
2022/03 予	—	—%	—	—%	6,700	30.7%	488.7	210.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	4,835円
52週高値:(2021/09/14)	5,259円
52週安値:(2021/03/05)	3,943円
予想PER	9.4倍
PBR	0.78倍
予想配当利回り	4.34%
時価総額	16,811億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

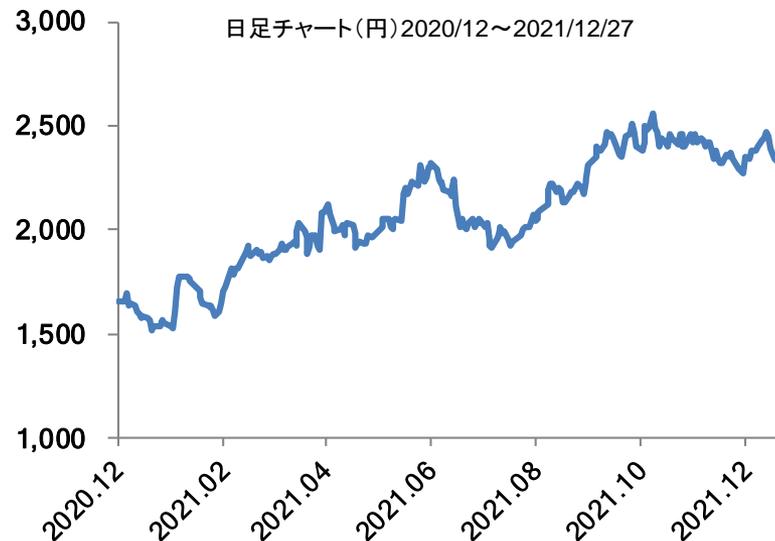


- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険、介護にも事業展開。災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2021年4-9月期(2Q)累計実績は、増収・増益、新型コロナ影響の反動によって損害保険が改善、株式売却益も上乗せ。通期会業績予想は増額修正、進捗率は70%超、自己株取得も発表。中期経営計画ではROE10%が目標。(水口 活也)

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	37,603	3.2%	1,924	▼3.3%	1,225	▼16.4%	334.1	150.0
2021/03 実績	38,463	2.3%	2,150	11.8%	1,424	16.3%	397.4	170.0
2022/03 予	—	—%	2,670	24.1%	1,780	24.9%	510.5	210.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/12/27)	2,303.0円
52週高値:(2021/10/11)	2,564.5円
52週安値:(2021/01/04)	1,506円
予想PER	6.9倍
PBR	0.48倍
予想配当利回り	3.47%
時価総額	25,723億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

- ◆ 国内生命保険大手、対面営業の生保が主力だが、特化型生保や損害保険、海外保険、資産運用にも事業展開。海外では、北米、豪州、アジアなどに子会社。
- ◆ 2021年4-9月期(2Q)累計実績は増収・増益、新型コロナ影響の反動による資産運用の好転と米国子会社改善が寄与。通期会社予想は増額修正、進捗率は50%超。リスク分散による資本コスト低減と資本利益率向上に注力。(水口 活也)

業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	71,140	▼1.0%	2,183	▼49.6%	324	▼85.6%	28.5	62.0
2021/03 実績	78,278	10.0%	5,528	153.2%	3,637	—%	325.6	62.0
2022/03 予	72,320	▼7.6%	5,200	▼5.9%	3,490	▼4.1%	326.2	80.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）



株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合は1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合は3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。